

令和8年4月16日  
北陸信越運輸局観光部

## 「木曾地域における宿泊実態調査」の結果を公表しました ～木曾地域宿泊実態調査で見た「需給ギャップ」と次の一手～

国土交通省北陸信越運輸局は、長野県木曾地域振興局と連携し、令和7年度観光地域動向調査事業として「木曾地域における宿泊実態調査」を実施しました。本調査は、木曾路に点在する宿泊施設の収容能力・稼働状況・宿泊者属性(外国人を含む)を面的に把握し、「宿が足りないと言われる一方で、空室もある」という地域課題の実態を明らかにするとともに、今後の観光振興・宿泊促進策の検討に資する基礎資料を整備することを目的として実施したものです。

このたび、アンケート調査およびヒアリング調査の結果を取りまとめましたので、公表いたします。北陸信越運輸局では、本調査結果を長野県・市町村の観光施策の検討・改善に活用してまいります。

### 【調査結果のポイント(抜粋)】

#### ■地域全体では「宿泊供給は不足していない」

- ・木曾地域全体としては、宿泊供給の総量不足は発生していないことが明らかになりました。
- ・一方で、人気エリア・人気宿への需要集中と、周辺地域・閑散期における空室が同時に存在しており、エリア・季節ごとの需給ギャップが課題となっています。
- ・冬季～春季に稼働が落ち込む市町村が多く、年間を通じた稼働の平準化が重要なテーマ。

#### ■外国人宿泊者は「一部の旅館」に集中

- ・外国人旅行者の宿泊は旅館への集中が顕著で、成功している施設では「英語表記のHP」や「口コミによる自然拡散」が集客に寄与していました。
- ・一方、海外OTA活用や多言語発信を行っていない施設もあり、外国人需要を取り込める余地も大きいことも分かりました。

### 1. 事業概要

事業名：令和7年度観光地域動向調査事業「木曾地域における宿泊実態調査」  
事業実施者：国土交通省北陸信越運輸局  
調査期間：令和7年9月～令和8年3月

### 2. 調査結果

- ・調査結果概要は別紙のとおり
- ・調査報告書(全体版)は以下のURLよりご覧いただけます  
URL：<https://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/hrt54/sightseeing/doukoutyousa.html>

#### <問い合わせ先>

北陸信越運輸局観光部観光地域振興課 森田 小池  
TEL：025-285-9181  
MAIL：[hrt-hrt-kankou@gxb.mlit.go.jp](mailto:hrt-hrt-kankou@gxb.mlit.go.jp)  
※北陸信越運輸局観光部は観光庁の地方組織です。

# 令和7年度観光地域動向調査事業「木曽地域における宿泊実態調査」調査結果（概要版）

## 業務の背景と目的

- 木曽地域の現状として、日帰り客が74.8%と多く、一人当たり観光消費額が4,000円程度と少額に留まっていることが課題であった。課題の解決のためには正確な実態調査に基づくデータと、それに基づく分析が必要であるが、木曽地域は小規模な宿泊施設が分散しており、観光庁や長野県が実施する統計調査等では、稼働率等の正確な実態把握が困難であった  
※出所：長野県 令和5年観光地利用者統計調査結果／木曽地域振興局への事前ヒアリング
- そうした背景を踏まえ本調査は、現状把握できていない域内の宿泊施設の実態を調査すると共に、新規宿泊需要の掘り起こしや既存需要の取りこぼしを防ぐ施策の検討材料を取得し、かつ、本調査の結果を「元気づくり支援金」を活用した観光戦略の見直しにも活用することを目的として実施した

## 調査内容及び回答結果

<b>調査①</b> アンケート調査	✓木曽地域の宿泊施設（199施設）を対象に、紙またはオンライン形式でのアンケート調査を実施した	➔	<b>調査①②</b> 回答結果
<b>調査②</b> ヒアリング調査	✓主に外国人需要に関する事項について、アンケート調査に回答いただいた宿泊施設を対象に、電話にてヒアリングを実施した		
			<ul style="list-style-type: none"><li>• アンケート調査は7市町村、計105件のサンプルを回収 内訳：木曽町44件、上松町6件、南木曽町17件、木祖村9件、王滝村12件、大桑村5件、塩尻市6件、中津川市6件</li><li>• ヒアリング調査は各市町村1施設以上、計18施設へ実施 内訳：木曽町4件、上松町1件、南木曽町5件、木祖村1件、王滝村2件、大桑村1件、塩尻市2件、中津川市2件</li></ul>

## 分析の観点

✓アンケート調査・ヒアリング調査の結果を用いて、次のA.～C.の3つの観点で分析を行った

### A：需給ギャップを埋めるための分析

- 木曽地域では「人気エリアでの客室不足」と「周辺部の空室」が同時に発生していると想定
- 本調査では、地域の需給のギャップを可視化することで、需要過多/供給過多エリアに適切な面的施策を検討する材料を得る

### B：外国人旅行者の最大化に向けた分析

- 日本全体で外国人旅行者が急回復し、国の「訪日旅行ビジョン2023」では地方部の受入体制強化が重点テーマに設定
- 本調査では、現状の外国人旅行者の取込み状況や伸び代がある施設タイプを把握。外国人旅行者の最大化に向けた検討材料を得る

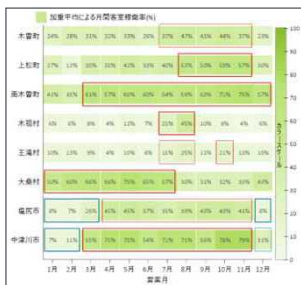
### C：稼働と単価を上げ収益性を高めるための分析

- 宿泊業は、地域の稼働力に強い影響を及ぼすため、収益性の向上は業界全体の課題である
- 木曽地域は小規模事業者が多く、価格戦略が経験則に依存している可能性が高い
- 本調査では、稼働率、ADR、販売チャネル構成、値付けや販促の方向性を整理し、行政が個別施設に対して実施すべき施策を検討する

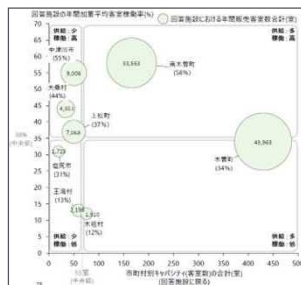
# 調査結果

## A: 需給ギャップを埋めるための調査

- 木曽地域全体では、「供給の総量の不足」は生じていないことが分かった
- 更なる需要の創出は不可欠だが、現状の構造で需要創出を行うと、地域によっては季節的な来訪の偏りが大きくなる可能性が高い
- そのため、木曽地域一律の需要創出施策ではなく、市町村ごとの状態を踏まえた施策検討が必要



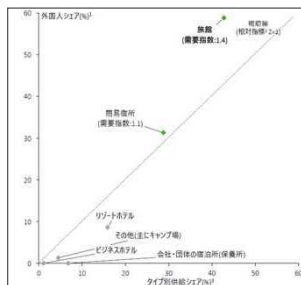
月別稼働ヒートマップ



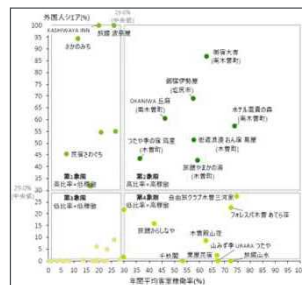
キャパシティ×稼働率×販売量

## B: 外国人旅行者の最大化を目指す調査

- 外国人需要は旅館と簡易宿所に集中しており、木曽地域においては、特に旅館への集中が強い
- 旅館は簡易宿所と比較して商品設計の幅が広く、需要に対して供給側が柔軟に対応し易いため、成功している施設の事例を横展開する場合は、旅館を軸とすることが効果的と考えられる



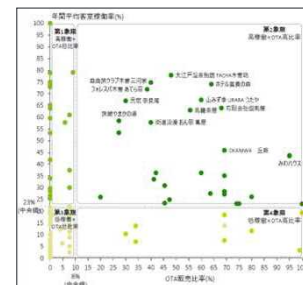
タイプ別供給vs外国人需要



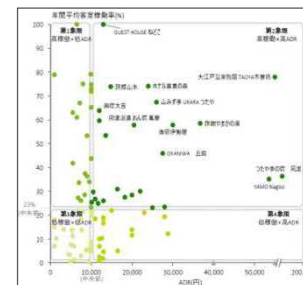
外国人シェア×稼働率(旅館)

## C: 稼働と単価を上げ収益性を高めるための調査

- 木曽地域の宿泊施設は稼働率が低い施設が多く、原因の1つとして、OTA販売比率が低いことが挙げられる。一部施設においてはOTAの活用促進も有効
- 宿泊施設における情報発信手法や販売手法の見直しも必要だが、地域の魅力向上によって宿泊需要を増加させる取組も同時に重要



稼働率×販売チャネル



稼働率×ADR

## ヒアリング結果サマリ

- 外国人シェアが高い施設においては、意図せず外国人を獲得しているケースが散見された。その背景には、自社HPに英語表記をしていたことも一因だが、継続的に自然獲得している施設では口コミの拡散による第三者の情報発信が寄与していた
- 一方で外国人シェアが低い施設においては、海外OTAへの掲載を行っておらず、自社HP等でも英語の表記や発信を行っていなかった。ただし、外国人の宿泊が少なくとも宿のブランド力やリピーター形成により国内シェアが十分に確立されており、稼働を確保できているケースも見られた

## 調査結果総括

### ■冬季～春季の宿泊需要を優先的に発掘することが望ましい

- 冬季～春季に稼働が低下する市町村が多いため、宿泊施設の年間客室稼働率を平準化するためには、冬季～春季に販売可能なコンテンツ造成を優先することが望ましい

### ■木曽地域全体の宿泊キャパシティには余力がある

- 一部人気宿を除いて、客室稼働率に余力がある市町村が殆ど、そのため新たに宿泊施設をに整備するのではなく、夕食を取れる飲食店や周遊・消費に繋がる拠点の整備を優先することが望ましい

### 日本遺産「木曽路はすべて山の中」ストーリーを活かした広域周遊実証事業(木曽広域連合)

重点プロジェクトの  
実施方針へ活用

重点プロジェクト

- ✓木曽らしさを体感できるコンテンツの造成と販売
  - 滞在時間延伸、広域周遊、消費機会の増大を目指して木曽らしさを体感できるコンテンツ・ツアー造成・販売
- ✓ガイド人材育成と活躍の場の整備
- ✓空き家を活用した拠点の整備
  - 空き家を活用して消費機会や滞在時間延伸に寄与する施設(宿泊施設、レストラン・カフェ、小売店)を整備
- ✓広域観光推進体制の発足